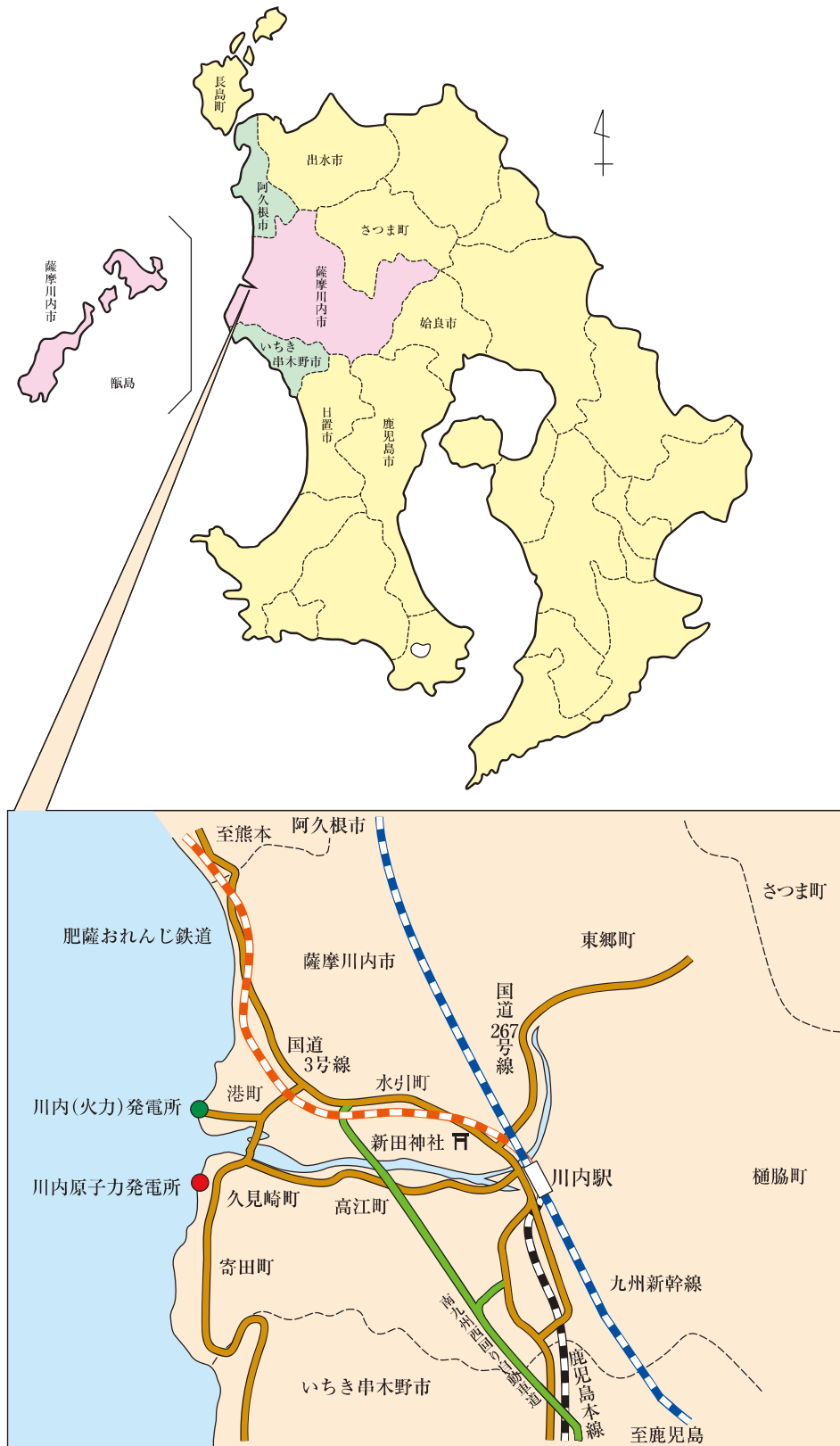


Ⅲ 参 考 資 料

Ⅲ - 1 川内原子力発電所位置図



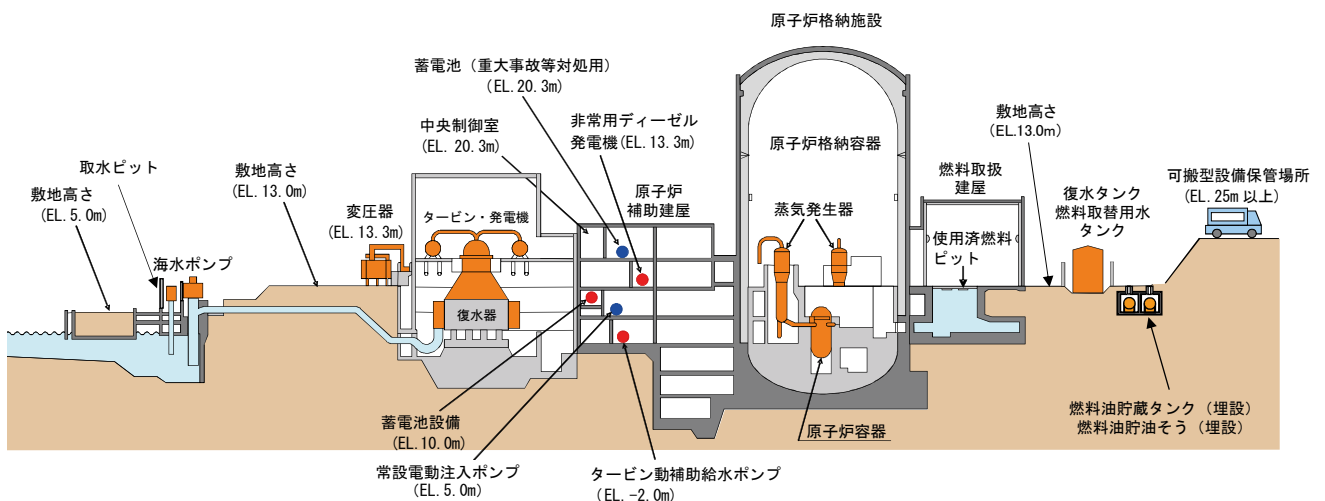
< 発電所全体配置図 >



※国道43号線は敷地外

< 発電所断面図 >

【イメージ】



Ⅲ - 2 川内原子力発電所の概要

川内原子力発電所は、1号機が昭和59年に全国で27番目、2号機が昭和60年に全国で32番目の商業用原子炉として営業運転を開始している。

項 目		ユニット	
		1 号 機	2 号 機
所 在 地		薩摩川内市久見崎町字片平山1765番地3	
敷 地 面 積		約145万m ² （埋立面積約10万m ² を含む）	
電 気 出 力		89万kW	89万kW
原 子 炉	型 式	加圧水型軽水炉（PWR）	
	熱 出 力	266万kW	266万kW
燃 料	種 別	低濃縮（約4.1%，約4.8%）二酸化ウラン	
	装 荷 量	約74トン （燃料集合体157体）	約74トン （燃料集合体157体）
冷却海水量		約64m ³ /s	約64m ³ /s
主 要 経 緯	川内市議会・誘致決議	昭和39年12月15日	—
	建 設 計 画 発 表	昭和45年 4月21日	昭和52年 3月29日
	電 源 開 発 調 整 審 議 会	昭和51年 3月12日 （第68回）	昭和53年 7月14日 （第75回）
	原 子 炉 設 置 許 可	昭和52年12月17日	昭和55年12月22日
	着 工（基礎掘削開始）	昭和54年 1月24日	昭和56年 5月 7日
	安 全 協 定 調 印	昭和57年 6月12日	
	初 臨 界	昭和58年 8月25日	昭和60年 3月18日
	初 送 電	昭和58年 9月16日	昭和60年 4月 5日
	営 業 運 転 開 始	昭和59年 7月 4日	昭和60年11月28日
建 設 費		約2,800億円	約2,300億円

Ⅲ－３ 原子力防災訓練当日のコメント(ぶらさがり取材)

1 知事

今回の訓練には、国や薩摩川内市をはじめ、およそ210の関係機関、5,000人が参加するというこれまでにない最大規模の訓練となりました。

今回は、前回の反省点や専門委員会からの御意見等を踏まえ、熊本県水俣市への広域避難訓練や幼稚園や高校での避難訓練、発災直後の初動対応訓練、避難所運営の規模拡充を含めて、様々な新しい訓練を行った次第であります。

今回の訓練での反省点や専門委員会からの御意見、オフサイトセンター運営訓練後の振り返りでの御指摘等を踏まえて、次の防災訓練に活かしていきたいと思っております。

県民の安心・安全が一番であると思っておりますので、防災訓練のさらなる拡充・充実に向けて取り組んでいきたいと思っております。

2 荒木真一 内閣府大臣官房審議官（原子力災害対策現地本部長）

今回、昨年から連続して訓練に参加させていただきました。このような訓練は、一日で全てが終わるというわけではないので、様々な課題に対し、細かくやらないといけない部分もあると思っております。

今回の訓練や別の訓練の機会を通じて、引き続きしっかりと実施していく必要があると実感したところがございます。